

オムレツサーバー

お腹に蟲を飼ってる女の子を
セフレにした話+







お腹に蟲を飼ってる女の子を
セフレにした話

西





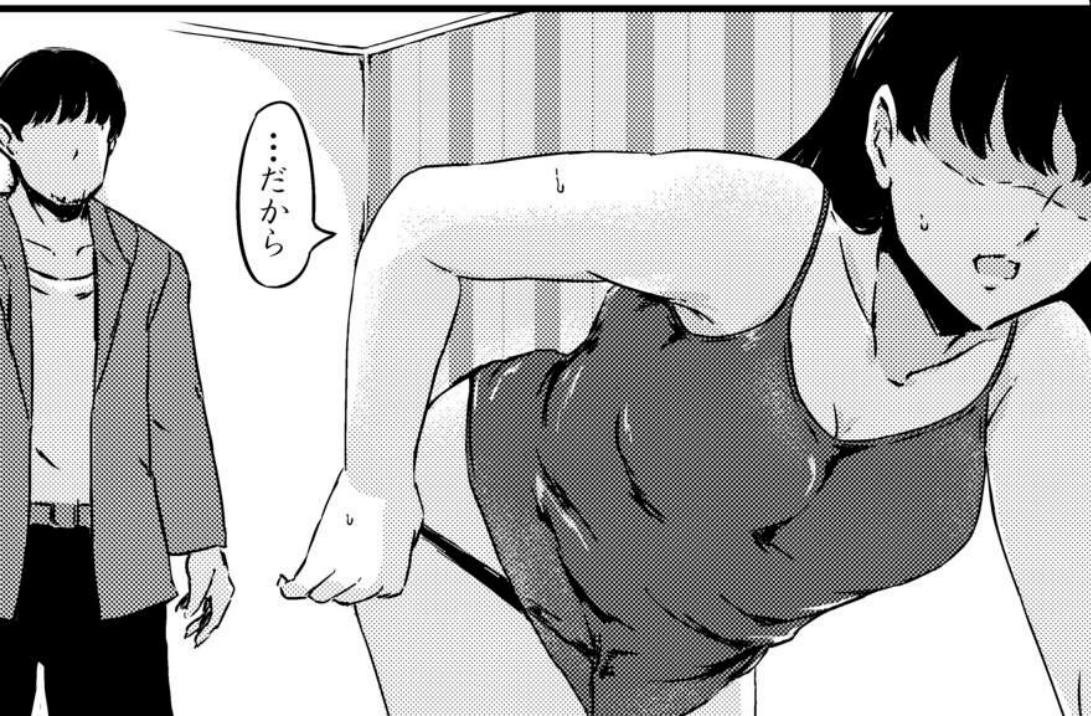


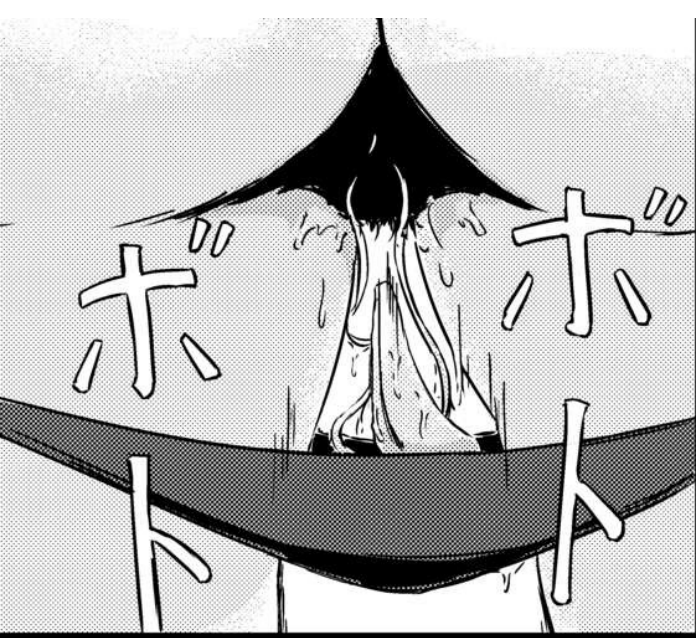






10







ふうっ

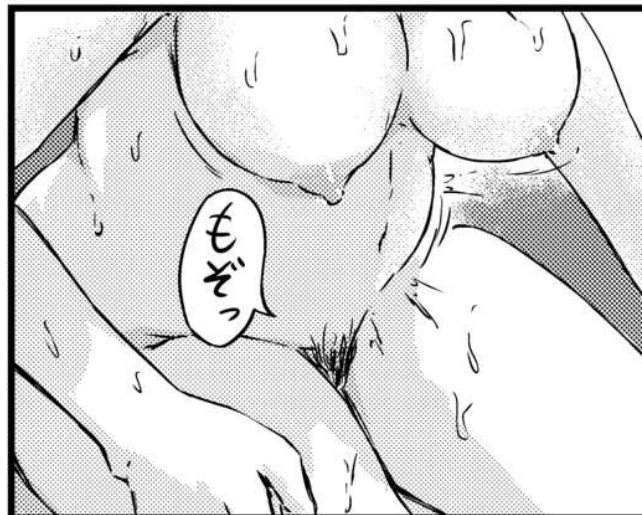
お風呂
行きましょうか



そろそろ、
出てきたみたいです

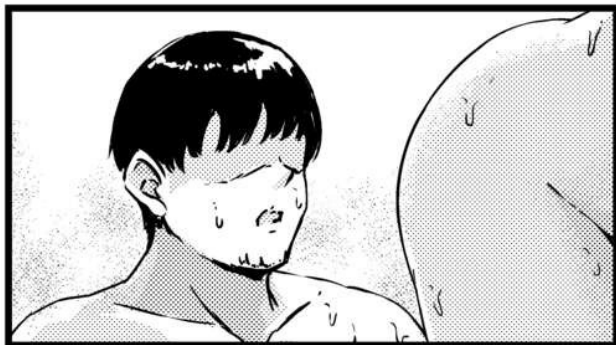


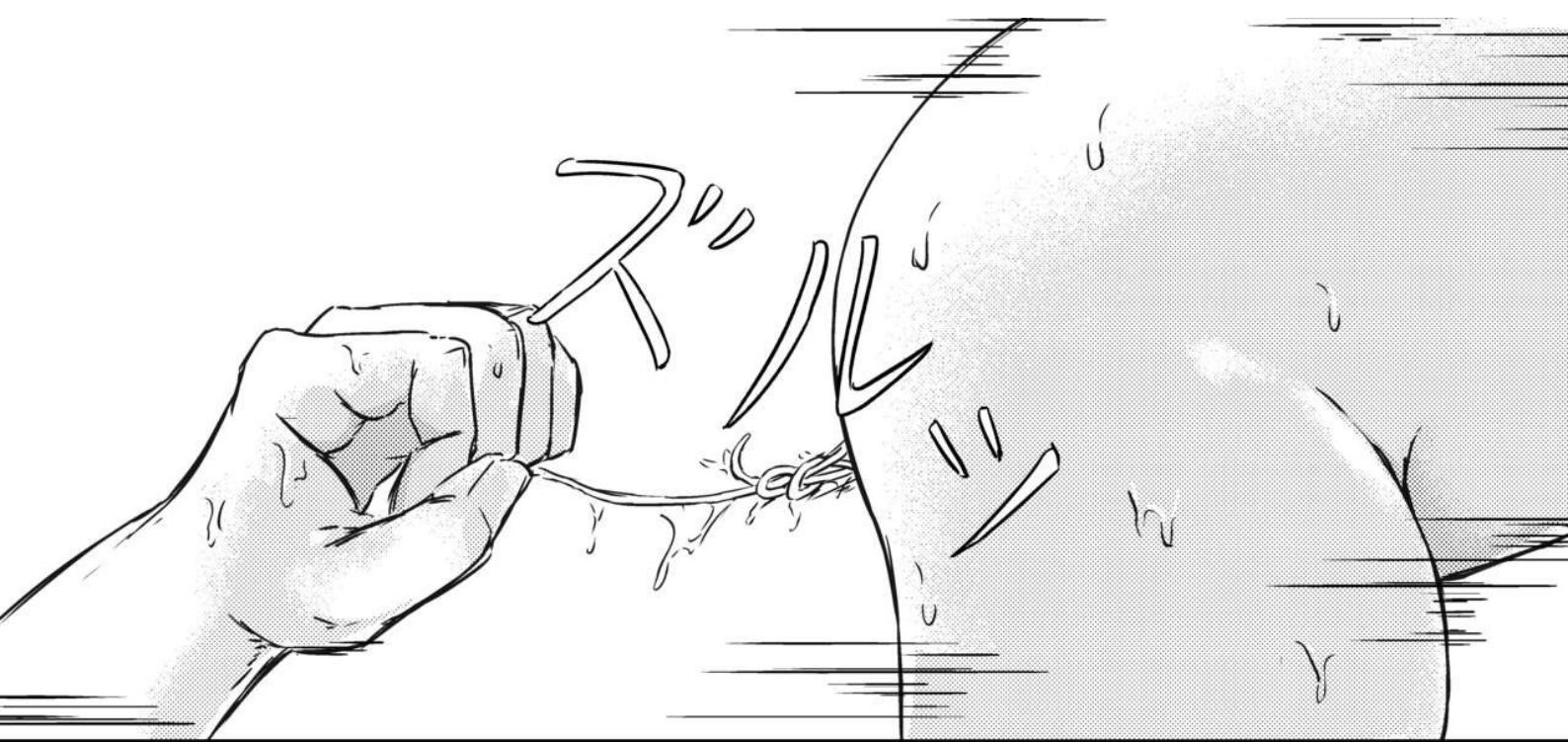
あっ...

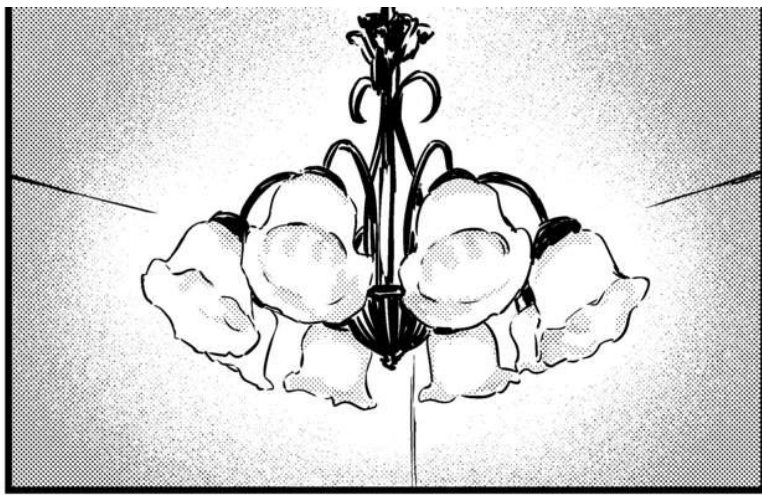


もぞっ





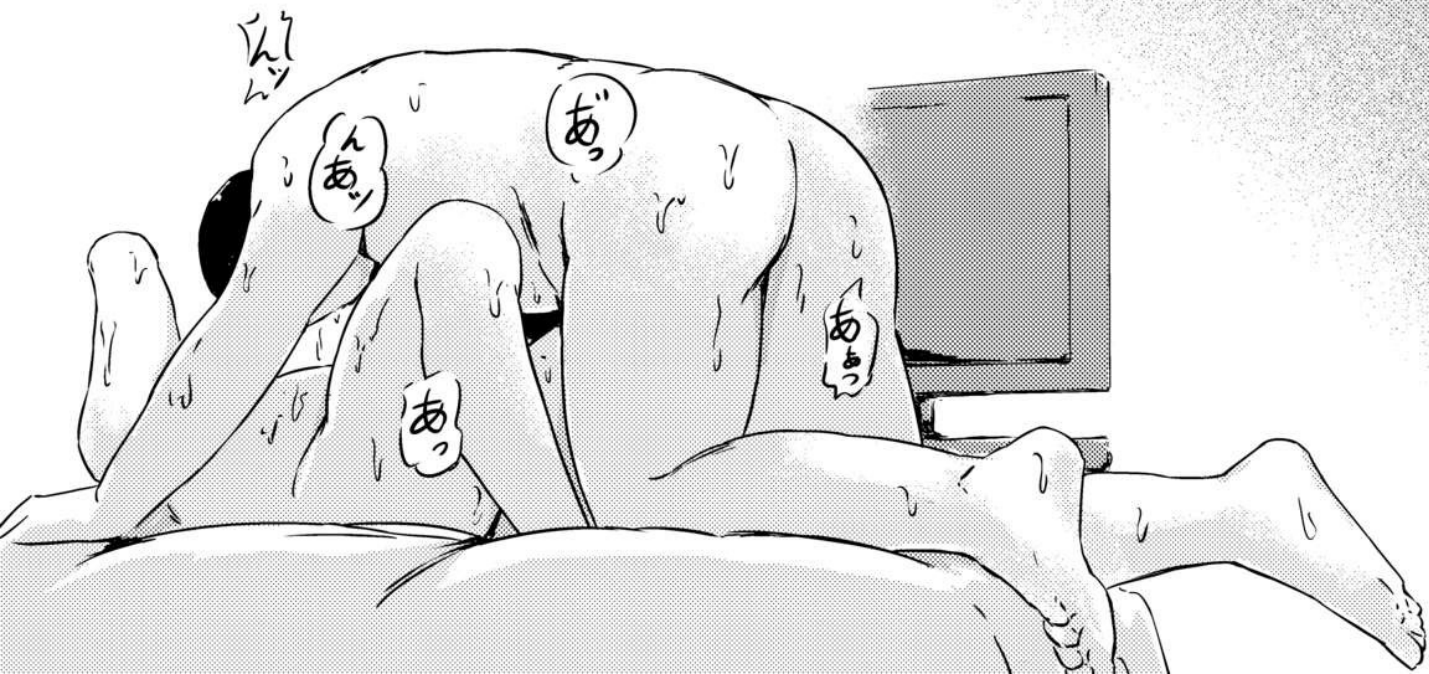


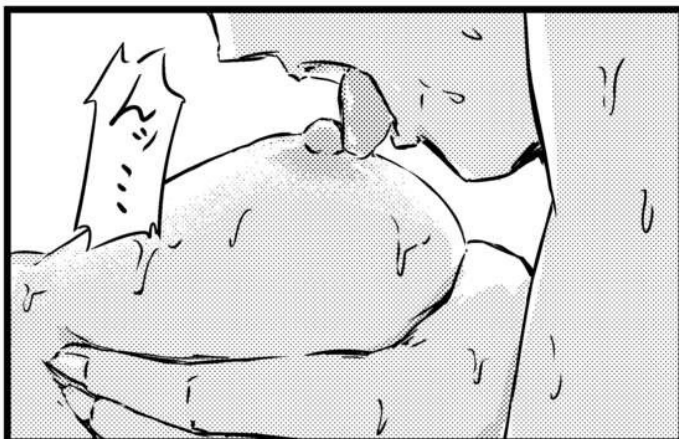


半分くらい…
出ましたネ

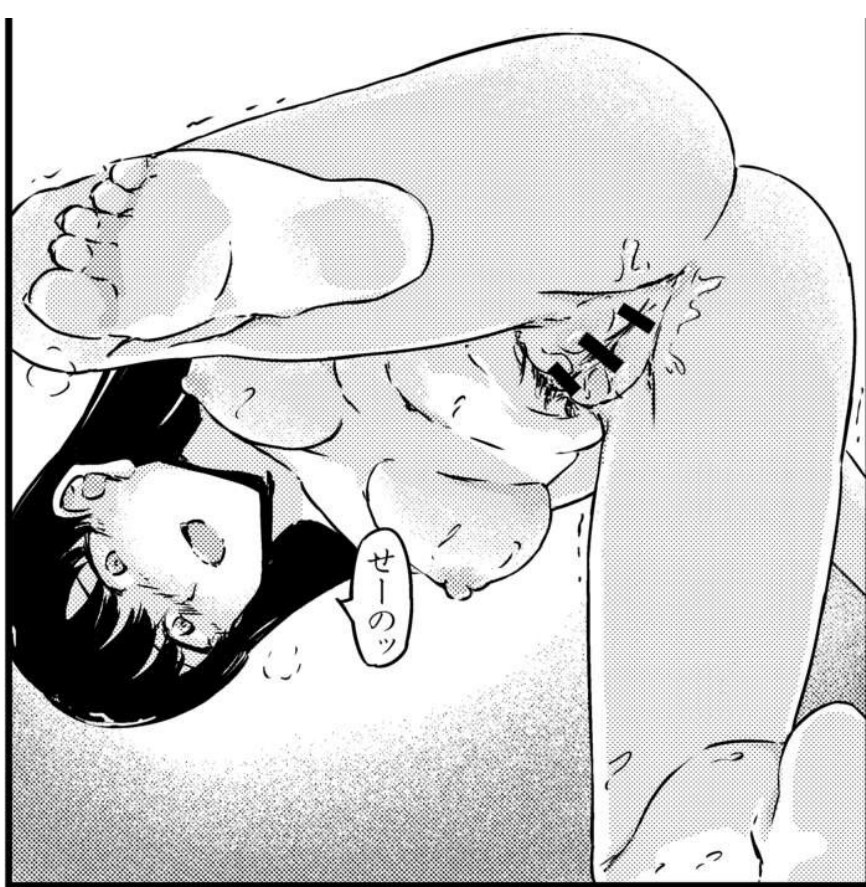


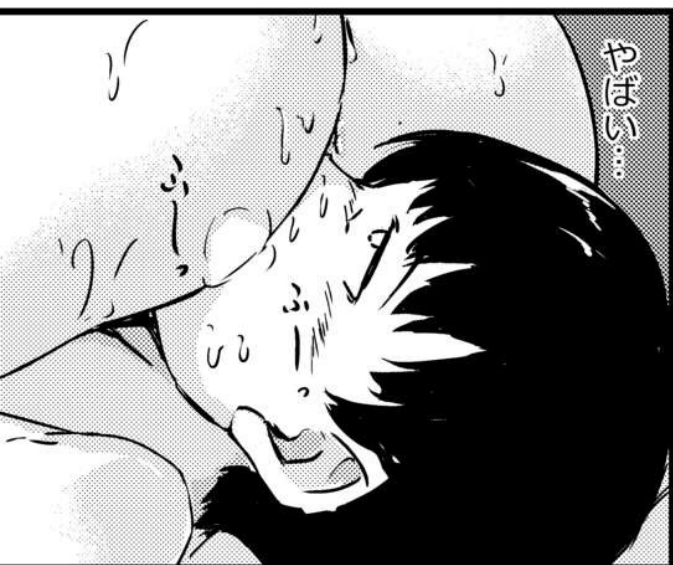
16



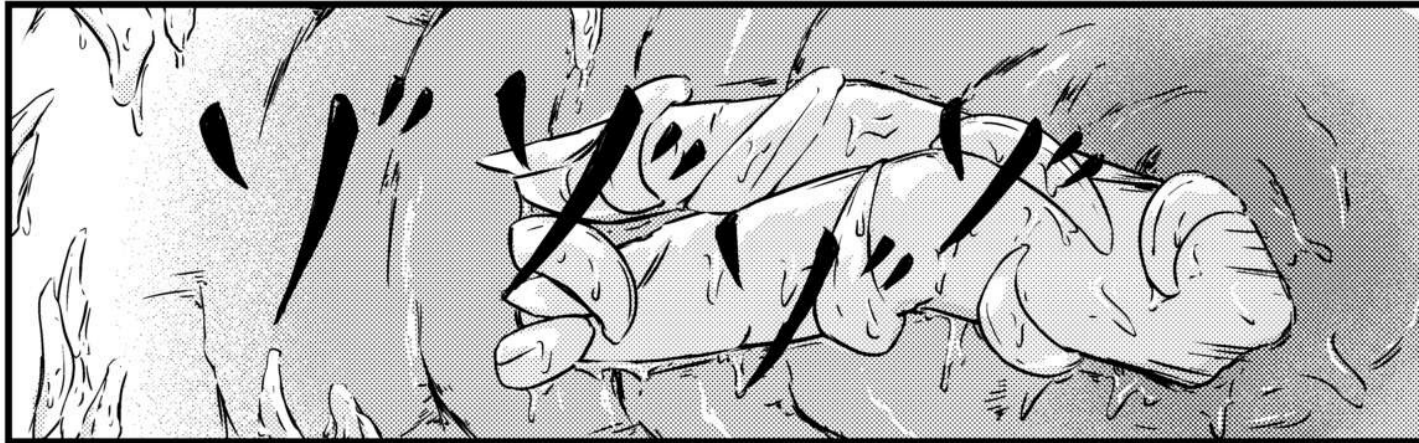






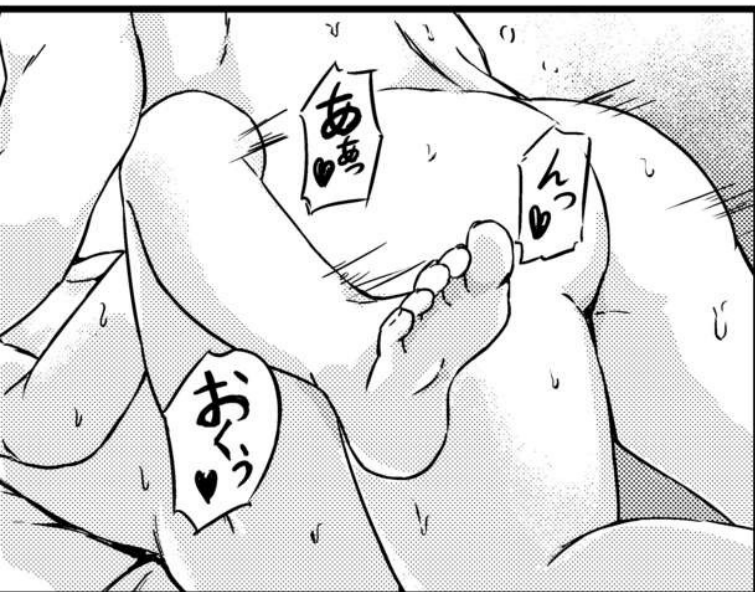


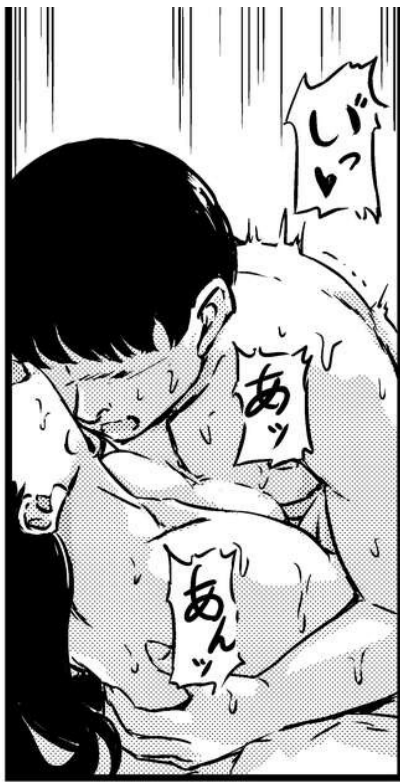


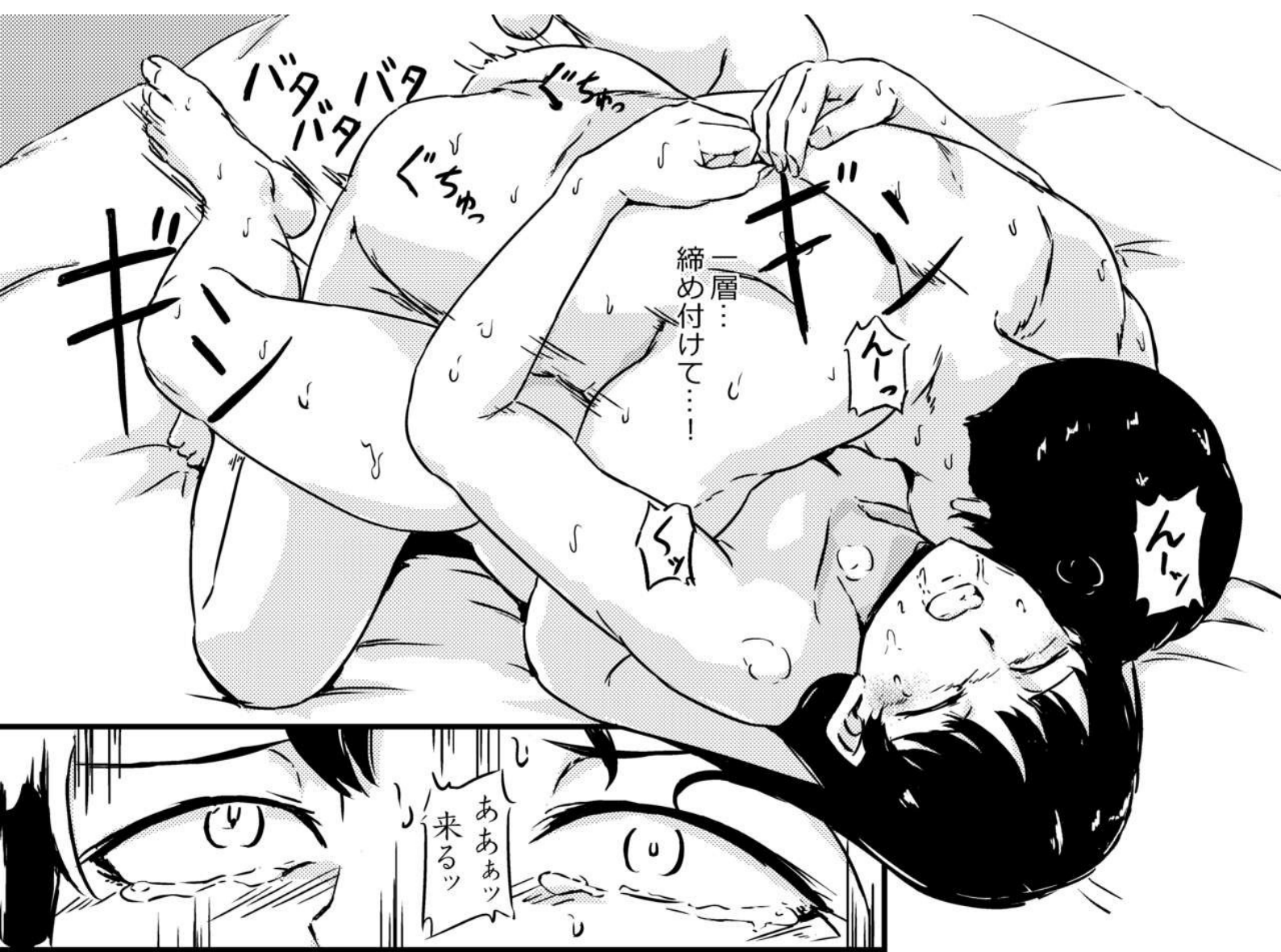




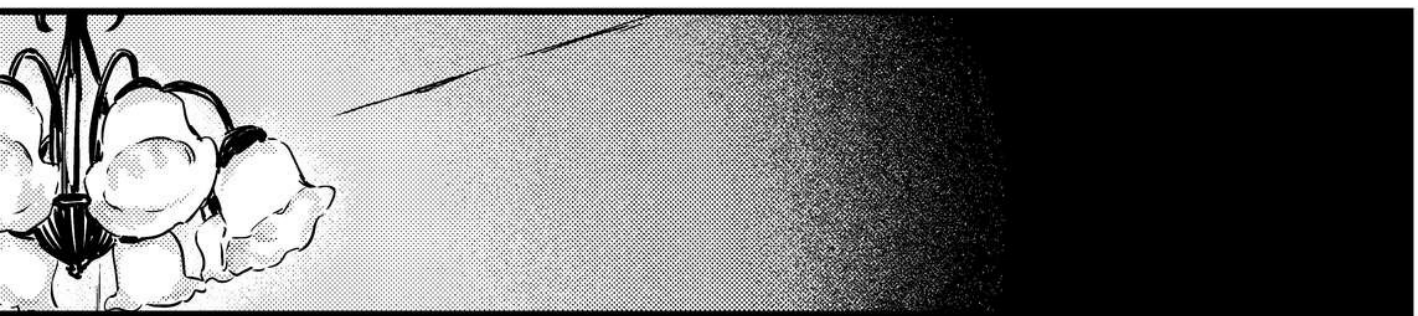
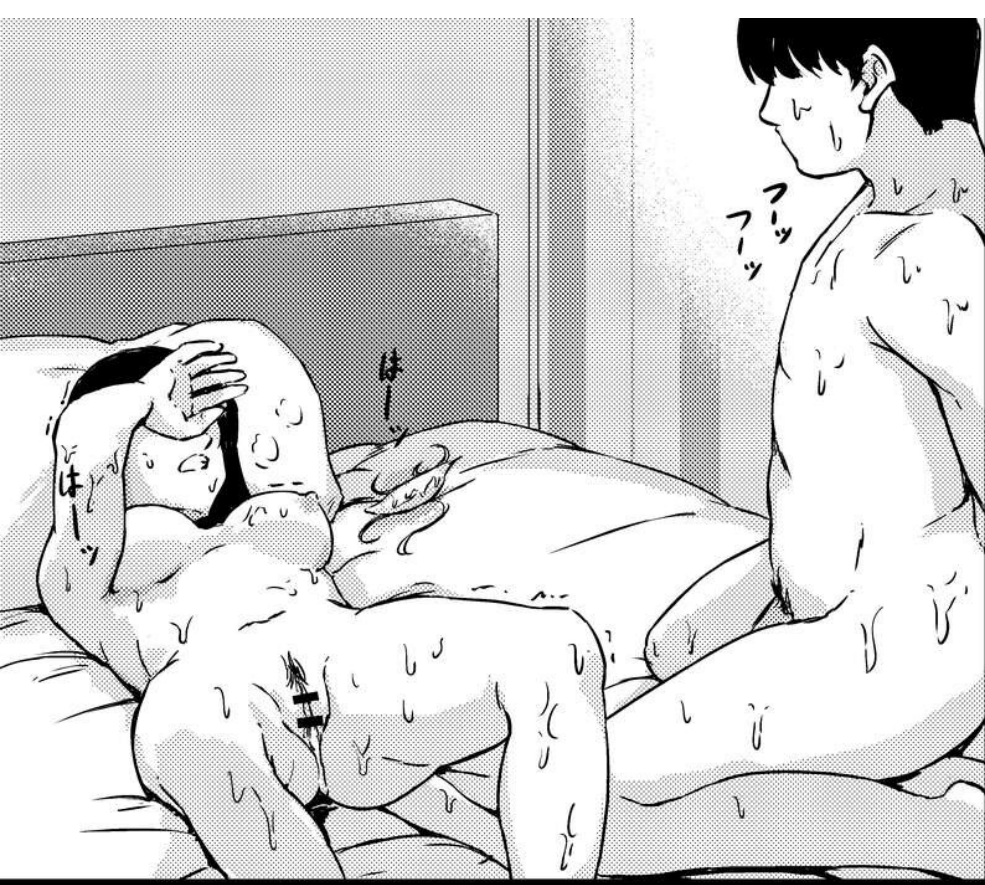


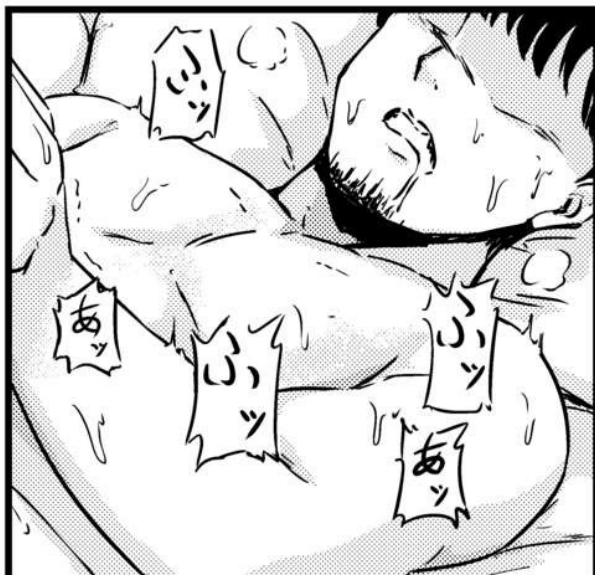


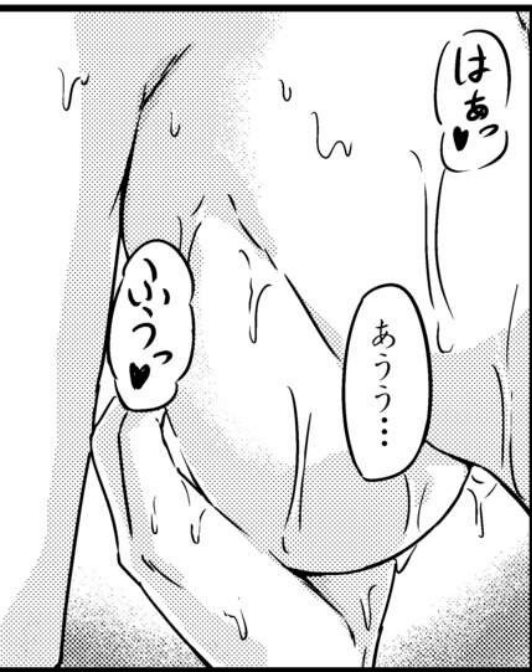


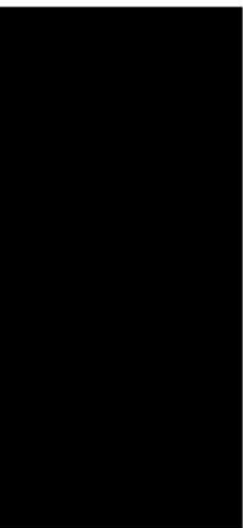
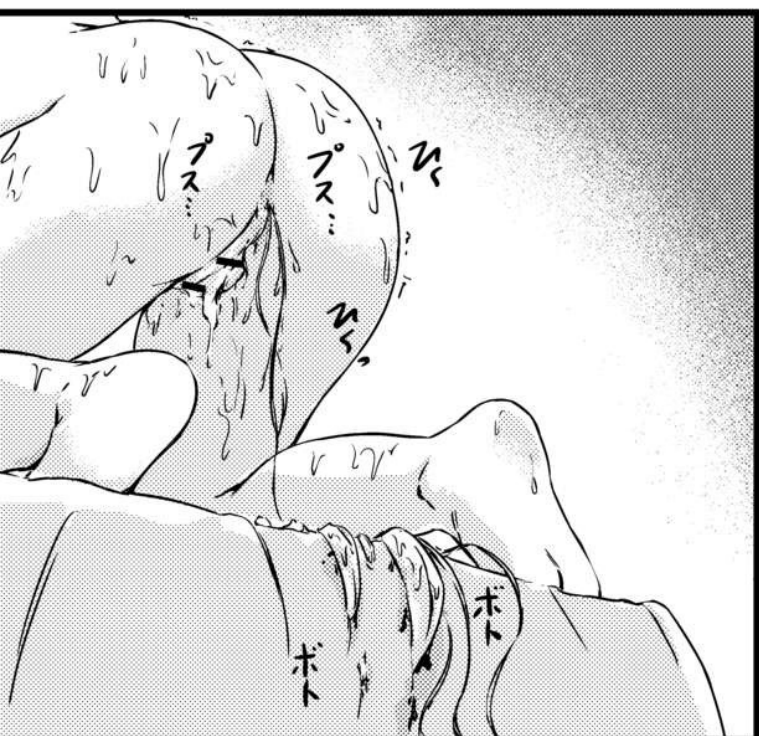
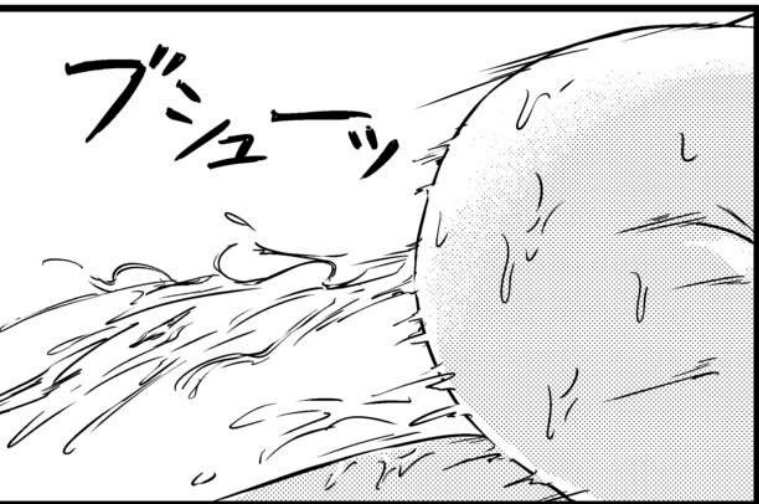


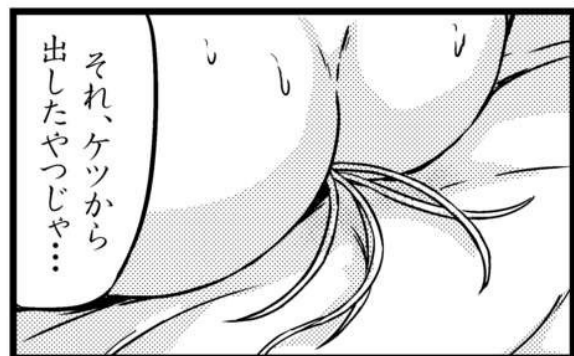


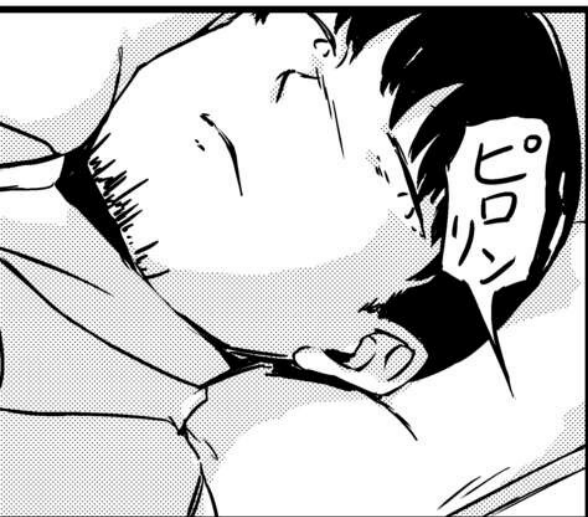
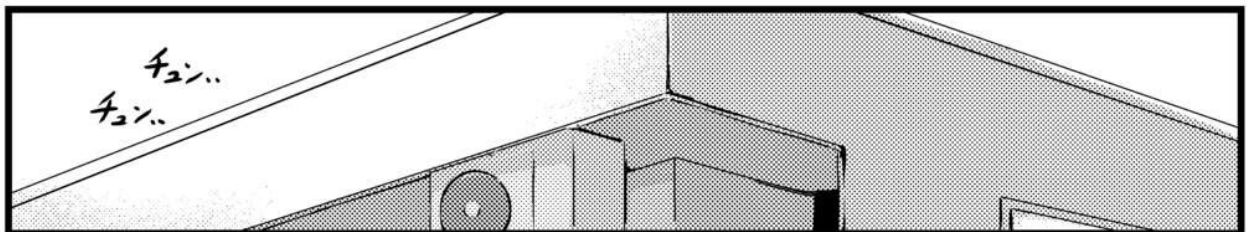




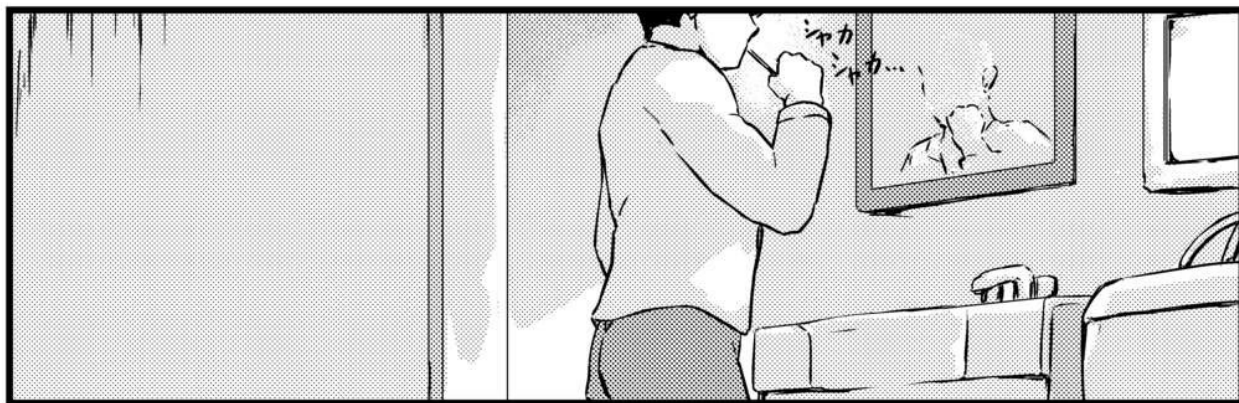








オフパコしました♡



(令和三年九月二十九日改訂)

お読みいただき、ありがとうございました。



口からも蟲が溢れ出て来た為にすぐに喋ることが出来なかったmegがようやく口を開いた…

meg『何週間も溜め込んだ蟲さん達が一斉に大繁殖して数を増やし続けてくれてるの♪…あッ♥100匹ってぐらいの膨らみじゃないわね♪…あッ…お腹痛い…』

フジオ『さっきまで何とも無かったじゃないか、なんで今になって急に』

meg『さっきまで私が気持ち良くセックスしてたから蟲さん達が強く反応しちゃって…』と苦しうだが嬉しそうに話す。

meg『私…限界が来ちゃった…お腹がこんなになるまで溜め続けた蟲さん、ここでぜんっつぶ(全部)出しちゃうね♪♪♪』

megがニコリと笑った次の瞬間から、すごいことになった…

姿勢を変えて布団の上に座った途端!
megの口から肛門から次々と蟲達が溢れ出てき始めた!!
口が嘔吐する時のように自然と大きく開いたと思えば、次から次へと蟲が大量に姿を現す。

ゴオウウェッ!オオオオオーゴウエエーッ!
ゴオウウェッ!ゴボロロロボボボボーゴオウウェッ!
グオウゲエエエー—————ッ!!

ビシャシャシャッ!ボッシャッボチャッ!
パシャッパッシャ!ゴオウウェッ!グオウゲエエエー—————ッ!
オオウボゲエエエッ!!
ゴウウエエッ!ゴオウウェッ!オオオオオーゴウエエーッ!!

視線と下に向けると、ケツ穴からも勢いよく大量の蟲が溢れ出てくるのが、一目で分かった

ボドドドドドドッ
ボドドドドドドー—————ッ
ボトンボトンボドドドドー—————ッ
ボトボトッ
ボトボトッ
ボドドドドドドッ
ボドドドドドドー———ッ
ブリュッブリュッブフブフフー———ッ
ボトンッボトボトッボドドドドドドー—————ッ!

まだまだ口から溢れ出てくる蟲の数は減っていない
相当な数の蟲がギュウギュウになりながらも体内で留まり続けていたようだ。
可能な限り体内で繁殖し続けた蟲は、体内に留まる限界を越えたため、体外へ溢れ出るしか手段がなくなったのだ。

ゴオウウェッ!グウゲエエエー—————ッ!
ゴオウウェッ!オオオオオーゴウエエーッ!
ゴオウウェッ!ゴボロロロボボボボーゴオウウェッ!
グオウゲエエエー—————ッ!!
オオウエエエッ!オロロロロロロロロッ!ゴボボボボ—————ッ!
ゴオウウェッ!ゴウウェッオオオオオゴウエエーッ!!
ゴウロオロロロロロロー—————ッ!!!

止まらない止まらない、まるで蟲がmegの身体から溢れ出る動きが止まらない。
止まる気配がまだまだ無い…megはこのまま体内から溢れ出る蟲を出し続けたまま死んでしまうのかと思うほどに…

megの体内に大量に溜め込まれた蟲達が全部出切るまで、フジオは産卵というか大量出産というのか分からない光景を見守っていた。

布団の面積から余裕ではみ出る蟲の量にフジオもmegも驚いた。

1DKのフジオの部屋全体の4分の1ほどの面積をmegの身体から溢れ出てきた蟲によって埋め尽くされてしまっている。

部屋中が蟲だらけになったいるが不思議と臭くはない、むしろなんだか甘い香りがするんだがこれも蟲たちによるものなんだとフジオは理解することが出来た。

それにしてもこのおびただしい数の蟲が自分達の周りを埋めつくしている状況を見て、寄生虫の気持ち悪さと成長っぷりに驚き過ぎてしまっている。
なんせ100匹以上もの寄生蟲たちが20代美女であるmegの体内から出てきたのだから…

meg『はあ…はあ…蟲さん産むのすごく気持ち良かった…、お腹スッキリする…』

フジオ『おいおい…この大量の蟲どうすんだよ…』

meg『もしよろしければプレゼントしますよ♪あ、でも私の可愛い蟲さん達だから半分は私が持って帰りますけど』

meg『全部出ちゃったから何匹かお腹に入れておかないと…グウェッ…グウェッ…オウエッ』

フジオ『お前も懲りないな…こんなにことになるような蟲をまた腹の中で育てていこうとしてるんだから…』

meg『ふふっ、それは私が可愛がって飼っている蟲さんですから、飼っているうちにどんどん愛情が出てくるんですよ♪♥』

布団の上や布団の周りを大量に埋めつくして、今いる部屋からもはみ出しながら吐き出された大量の蟲の中に、ピクピクと動きがある蟲も数十匹いるように見える。
そのうちの1匹を両手で掴み、その手をフジオに近付けるとこう言った。

meg『フジオさん、今日こそ私が産んだ可愛い蟲さん食べて見ませんか?クセがありますけど、噛まないで丸飲みしてあげてくださいね♪』

フジオ『じゃあ…1匹ぐらい…ゴオウウェッ!』

終

meg『ああ～～んあンッあンッ!きちやう!気持ちいいのが全身にきちやうう～～～～っ!!!』

megがバックで子宮口が壊れてしまいそうなくらい激しく突かれて、喘ぎ声が叫び声のように大音量になったかと思っていると、既にmegの体内では変化が起こっていたようだ。

meg『ゴオウエッ!…ゴオウエッ!』

突如megの口から、勢いよく蟲が2匹続けて飛び出してきた。四つん這いの体勢もあってか口から飛び出た蟲は、勢い余って部屋隣のキッチンにまで一瞬のうちに2匹とも飛んでいった。

セックス中に口から飛び出る蟲を見たのは今日で3回目なフジオは、蟲が口から出たことに驚いたのではなくその飛び出る勢いに驚いていた。前回は正常位でセックスをしていたときに口から蟲が飛び出たことがあったが、体勢が違ふとこんなにも飛び出る時の勢いが違うものなのかと考えさせられるフジオだった。

meg『はあ…はあ…はあ…はあ…』

蟲が飛び出た直後のmegの口は、蟲の体液なのか少しドロついた液体で口周りが濡れている。

megが口から蟲を出しても2人のセックスは終わらない。今もこうして体勢を変えながら、2人の結合部分から卑猥な水分を多く含んだ音が部屋に響き渡っていて、まだまだセックスが続いていることを物語っている。

再びmegがフジオの身体に跨がり騎乗位で激しく動きまわっていた。セックスを初めてから1時間半以上が経過していて、ノリに乗ってきた2人は今よりも激しいセックスをしようとお互いに身体を大きく動かして結合部分をぶつけ合っている。

今の騎乗位は最初の騎乗位とは全く違うもので、動いているのはmegだけではない、フジオも長期間のセックスでノリに乗っており自らの快感を増大させようと寝ている状態ながらも夢中で下から激しく腰を動かして、megが腰を降ろすのと同時にフジオは下から上に突き上げる動きをしているから、2人の結合部分はその勢いから激しくぶつかり、バシッ!バシッ!と大きな音を立てるまでになった。こうしている内にもmegは大きな喘ぎ声をだしてセックスが気持ちいいことを全身で表しているかのように快感を得続けている。

meg『おおっ!おほおっ!ああ～～～～っ♪あはあ～～～んんっ♥ぎぼちいいい～～～～っ!!!』

すると、またもやmegの身体に変化が起こる。なんだかボテ腹になった腹部が少し痙攣してるかのようにブルブルと震えたと思った次の瞬間。

meg『ゴボォーッ!ゴオウエッ!ゴオウエッ!』

またもや、megの口から蟲が勢いよく飛び出してきた。しかも今回は大きめなサイズが3匹も。この時お互いの顔が見えるように騎乗位セックスをしていた為に、勢いよく飛び出た蟲たちはフジオの顔面方向に高速で向かってきた。

バシャッバシャッ
ベチャッ

口から出てきた蟲のうち2匹はフジオの顔の上30cmほどの高さを高速で飛んでいったが、そのうちの1匹は丸々と肥えた蟲だったこともあってか高度を保つことが出来ずに、フジオの顔面に高速で直撃した。

フジオは触手をまとった蟲を顔からどかすと、快感のあまりに絶頂してるmegが目に入った。全身をビクビク痙攣させながら騎乗位の体勢で豪快にいったみたいだった。

フジオ『うおお～～っ!!腔内が急にウネウネしだした!しかも強烈な締め付けがきて、出る出るうおおーっ!!!!!!』

ドーービュッドビュッドビュッドビュッドビュッドビュッドビュッドビュッドビュッドビュッ

フジオはmegの絶頂と同時に起こった腔内の激しい締め付けとウネウネとした動きに耐えられず、大量に大量に中出しした。

meg『ああ～～～っ♪♥あった…か…い…』
megは全身をビクビク痙攣させながらもフジオの大量中出しを腔内で感じていて、子宮に向かって大量に出続ける精液の温かさを味わっていた。

ひと通り偽妊娠ボテ腹マタニティーセックスを終えた2人は、身体が落ち着くまで仲良く並んで横になりながら『今日のセックスは良かった』とお互い言い合っていた。

気持ち良くボテ腹セックスを楽しんだ2人が全裸で身体を休めていると…

突然megの身体が急変する!
妊娠8～9ヶ月目ぐらいの大きさmegの腹がいきなり膨らみ始めて急激に大きさが増していつている!!!

ムクムクムクッ!ポコンポコンポコンッ!

既に臨月妊婦よりも大きな腹になっている!異常な膨らみようだ!
胸の下から足の付け根までまん丸デカデカと小山のように膨れ上がっている腹が今にも破裂してしまいそうなくらいにギチギチと中から形を変えて大きさを増し続けている!!

ギチギチッ
ポコンッポコンッ

フジオはmegの腹が膨らむ瞬間を初めて目の当たりにして興奮し出すと同時にmegの体調を伺う。

フジオ『おい!大丈夫か!!!腹がスゴい膨らんでるぞ!!!』

meg『お腹の中の蟲さん達が今私の体内で大繁殖してるの♥♪』

姿勢を変えて布団の上に座った途端!
口から1匹が溢れ出てきた
それに続いてもう1匹、もう1匹と溢れ出始めた

ゴオウエッ!…ゴウエッ!ゴボボボボォーッ!
ゴオウエッ!…ゴウエッ!ゴボロロロッ!!

たしかに、この大きさにまで膨らんだ腹なら妊婦と間違われても仕方がないと納得する。
だが彼女の腹の膨らみは赤ん坊によるものではなく、彼女が体内で飼っている蟲が腹の形を変えてパンパンに膨らむまで増え続けた結果だと言うことを頭の中で再度認識した。
普通の人なら腹がパンパンに膨らむまで蟲を溜めようとは思わないはずだ。しかし、megはむしろ嬉しそうな満足そうな表情を見せながら、その膨らんだ腹を時より撫でている。

フジオ『なあ、そろそろ…始めないか？』

meg『はいっ!♪今日も前みたいに私を抱いて下さるんですね♪今日は2人でマタニティーセックスを体験しましょうね♪』

今日は前回とは違ったセックスを楽しめそうだ。妊娠させたわけでもないのに、ボテ腹セックスを楽しめるなんて思ってもなかった。megが腹に寄生している蟲を長期間に渡って溜め込み続けてくれたから出来るわけだ。
普通の男ならセフレの女を妊娠させてしまったら喜んでなんでもいられず子供の子供の責任について考えてしまうのではないだろうか。ましてや、本当のボテ腹ならその大きくなった腹を気にしながらセックスをしなければなるまい。またはセックス自体を控えるのだろう。
でもmegの身体はイレギュラー、この大きく膨らんだ腹には俺の子供はいない、責任も何も無いから罪悪感もない。こんなボテ腹女と激しいセックスが出来るのは今のところmegとだけ可能なことだ。

セックスが始まると、いきなりmegがフジオの身体に跨がり騎乗位をする体勢になった。

meg『フジオさん入れますね。』

ズブズブッ

megは興奮していたらしくマンコは十分に濡れていて、一発目の挿入でもなんなくスムーズに入っていった。

meg『んあ、ああ〜ん♪固くて大きいですよ♪』

フジオ『なんだよ、入れる前からヌルヌルじゃないか、早くセックスしたかったのか？』

meg『はいっ♪今日はセックスするために私は来たんですから、それはもう玄関を開けてもらった時からウズウズしていましたからっ、あんっあんっ♪♥』

パーンパーンパーンパーンッ
パーンパーンパーンパーンッ

最初の騎乗位は、長いストロークで遅いペースで上下運動をしながらフジオにとって初めて、そしてmegにとっても初めてであろうボテ腹マタニティーセックス。megがフジオの股間の上でタパンタパンと音を立てながら上下運動をすると、フジオはおっぱいとボテ腹もmegの身体の動きに合わせて上下しているのが目に入った。

フジオ『腹が重そうだな。ホントに妊婦とセックスするみたいだ。』

meg『ふふっ、フジオさんは妊婦さんみたいな大きいお腹してる女の子は好きですか？今日は私のことを妊婦さんだと思ってセックスしても良いですからね。でもお腹の中にいるのは赤ちゃんじゃなくて蟲さんですけど♪♥』

フジオ『うおっ!腹の中に蟲が大量に詰まってるからなのか、膣内にチンポ入れてるとなんだか上からの重みを感じるな。』

meg『ふふふっ、それは蟲さん達の重みだと思いますよ!だって私のお腹の中に赤ちゃんが入ってるみたいな重みを感じるんですもの♪ああ〜んあんっあんっ♪♥お腹の中がずっしずっし揺れてる〜』

騎乗位でフジオの身体に跨がっていたmegがゆっくりと腰を浮かせてチンポを抜くと、今度はフジオにバックで突いて欲しいと要望した。

四つん這いになったmegの裸体を真後ろから見ても、脚の間から大きく膨らんだ腹がいつもより床面に近付いていることがよく見えていた。まん丸に膨らんだボテ腹は重力に従って身体を起こしている状態より若干下に垂れ下がっていて、へと床面が近付いているんだ。

ニチャピチャ
ズブッ

フジオは滑りを良くするために、膣内に入れる前にマンコに溢れんばかりに出てくる愛液をチンポに着けてから入れた。

meg『あんっ♪フジオさんのチンポ長くて気持ちいい〜♥奥まで届いて子宮口キスしちゃってる〜♪』

フジオ『亀頭が1番奥に当たってる感触が俺にも分かるっ。megちゃんのマンコの中、愛液が大量ですごいヌルヌルしてる。意識しないとピストンが速まってしまうな。』

meg『良いですよフジオさん、もっと、もっと激しくして下さい!私のお尻に腰を強く打ち付けて、パンッパンッパンッパンッ!ってエッチな音を立てながら1番奥まで入れて私のことをめちゃくちゃにして下さいっ♪♥』

パンッ!パンッ!パンッ!パンッ!
パンッ!パンッ!パンッ!パンッ!

フジオは激しく突いてセックスの快感を増大させたかったのもあって、megに言われるとすぐに打ち付ける腰の動きを速めて激しいピストンをしはじめた。
まるで性的快感を貪る動物の交尾のように、2人に結合部分からは生身の肉同士が激しくぶつかり合っ出る音がフジオの部屋に響き渡っている。
1DKなフジオの部屋ぐらいだったら、今こうして鳴り響いている卑猥なパンパン音は、1DKのどこにいても耳に入ってくるようなぐらい肉同士のぶつける激しいパンパン音が2人の結合部分から発生し続けている。

meg『あんっあんっあんっあんっ♥バック激しくて気持ちいい〜〜っ!だんだん私の身体全体が気持ち良さを感じてきてるのが分かるう〜〜〜っ!』

フジオ『なんだこれ、megの膣内がいつもより気持ちいいな。いつもより愛液で中がヌルヌルになっているけど、チンポがより気持ちよく感じるぞ。これも蟲の影響なのか。』

お腹に蟲を飼っている女の子とボテ腹セックスした話

作:Ponta.時々HENTAI

自分のお腹で蟲を飼っている女の子が、今日も相変わらずトイレで排泄して出た蟲の写真をSNSに上げていた。彼女とは2ヶ月ほど前に蟲との自撮り写真をくれるようにSNS上でやり取りしたのがきっかけで、その結果オフパコするセフレになった女の子だ。

彼女を抱いたあの日から、彼女が益々可愛く魅力的に見えるのはセックスをしたことによるマジックなのかもしれない、けど実際他の男から見ても可愛い娘だと思っている。

今日SNSに上げられた写真を見てみると、便器の中に蟲が4匹映っている。それと彼女の口元に目をやると彼女が飼っている蟲の触手であろう細くてニョロニョロしたヒモ状のものが閉じられた口から数本はみ出しているのが見えている。

これを見ると、この便器の中にいる蟲が彼女の肛門から出されたのか、口から出されたのか俺には分からない…

そんなお腹の中で飼っている蟲を、まるで可愛がっているかのように写るエロい彼女を見て興奮した。

俺は再び彼女をオフパコに誘っても良いのでは？と考え出すようになった。

なんだかんだこの2ヶ月間はお互い私用で時間が取れなかったこともあって彼女とは2ヶ月前のオフパコ以来会っていない、けど正式にセフレ関係になったのだから別にいつでもオフパコに誘っても良いんだし、オフパコしても良いんだから彼女と会うことに遠慮はいらないのか…

フジオはmegにオフパコの誘いをするためにスマホを取り通話をした。彼女は嫌がる素振りの一つも見せることなく喜んで承諾してくれた。

meg『はいっ喜んで！また私を抱いて下さるのですね♪』と即答するほどのノリノリっぷりだった。すると数秒間黙った後に、『あの…会う前に少しお時間を…日にちをいただけますか？』と彼女から提案を持ちかけられた。

フジオがmegをオフパコに誘ってから22日後、ようやくmegから今日会いに来る旨の連絡が来た。前回はラブホテルだったが、今回はフジオの自宅でオフパコすることになった。

ピンポーン

友人や客を呼ぶ機会がめっきり減っていたフジオの家に、久々に客人が来たことを知らせる音が部屋に鳴り響いた。今のところmeg以外に訪ねてくるような人がいないから、今まさに玄関前にいるのはmegで間違いない。部屋に入れるために玄関のドアを開けに行く。

meg『こんにちはフジオさん！お待たせしましたっ！』と、やけに明るい声で挨拶してきた。玄関先に立っているmegと会ったフジオは真っ先に妊婦のように膨らんだ腹に目が行く。

フジオ『おお、前と会った時に比べて腹が大きくなってないか？その腹でウチに来て良かったのか？』

meg『ふふふっ。まあここで立ち話もなんですし。』

フジオ『まあそうだな。』

megを部屋に入れると無言でいるのもなんなので、とりあえずフジオはオフパコに誘ってから今日までどうして日数が開いたのか気になっていたことをmegに聞いてみた。

フジオ『ところで、誘ってから随分経ってからになったけど、プライベートが忙しかったとか？』

meg『いえ、私の生活は普段と変わりませんよ。でもこの期間中は妊婦さんの気分を味わったというか、妊婦さんって色々な人に優しくしてもらえるんだな～って思いましたよ。今日だって電車でもバスでも、私が妊婦さんだと思って席を譲って下さる人が何人もいましたので。』

もう少し聞きたかったフジオは、megを最近使っていないわりと作りがしっかりしているゲーミングチェアに座らせて話の続きをした。

フジオ『megちゃんあのさ…大きくなったそのお腹なんだけど、もしかして俺の子供を妊娠したとか？』
meg『いえいえ、私はまだ妊娠なんて経験してませんよ。こんなにお腹が膨らんでる訳は、実はお腹の中にいる全部の蟲さんのせいなんです♪今回はフジオさんに喜んでもらいたくて、過去最長期間溜めて来ましたっ！今日で22日目です♪』

フジオ『蟲っ!?!蟲って…あのmegちゃんが腹の中で飼ってるヤツだよな？たしか…2つの穴でそれぞれ違う種類がいるんだっけ？』

meg『そうです。合ってますよ。そのうちの腸内で飼ってる方の蟲さんで、私が日頃SNSにアップしてるあの蟲さんですね。』
meg『あと、私ってどこまで蟲さんをお腹の中で溜められるか知りたくなったってのもありますけど！♪』

フジオ『そ、そうなんだな。』

相変わらず変わってるな一この娘と思ったフジオだったが感情が表情に出ないようにと彼なりに気を使った瞬間でもあった。

megを部屋に入れてからずっとお互い服を着たままで話し込んでいたから、そろそろ服を脱ぎ出して雰囲気作りを…とフジオは思っていたが、megも同じ事を考えていたようで、『私のお腹を見て欲しいです♪』と言って、megが先に服に手を掛け服を脱ぎ始めていた。

フジオ『あれから(オフパコを誘った日)蟲を溜め続けてたのは、今日こうしてボテ腹を見せる為に？』

meg『それもありますけど、限界まで溜め込まれた蟲さんが一気に出てくる所を見てみたくありませんか？』

フジオ『たしかに、見たい。』

お互い着ていた服を全て脱ぎ、全裸になった状態になったこの時に初めてボテ腹になったmegの身体を見た。

改めて腹に目をやると、腹部が明らかに膨らんでいてまるで妊娠7~8ヶ月ほどの妊婦腹のように、下腹部からへその上の肋骨付近までまん丸に曲線を描いていてキレイなボテ腹をしていると言っている。

お腹に虫を飼ってる女の子を
セフレにした話＋



発行 オムレツサーバー
発行者 西 (Twitter: @fm_nishiarai)
発行日 2022年9月4日